府中市自然環境調査 野鳥 2025年度3月 観察場所：武蔵台公園 観察時間：9時30分～11時10分 観察担当者 宮島、多田、鶴岡

				25年度観察数													
	観察月			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	観察月数	観察数合計
	観察日			9	14	17	9	13	10	8	12	11	14	18	11		
番号	科	名称	天気	晴	曇	曇	晴	曇	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴		
1	ｶﾓ	ｶﾙｶﾞﾓ														0	0
2	ﾊﾄ	ｷｼﾞﾊﾞﾄ			4	4	1	1	1	1	2		1	2	2	10	19
3	ｳ	ｶﾜｳ														0	0
4	ｻｷﾞ	ｱｵｻｷﾞ														0	0
5	ｻｷﾞ	ﾀﾞｲｻｷﾞ	○													0	0
6	ｶｯｺｳ	ﾂﾂﾄﾞﾘ	・													0	0
7	ﾄﾋﾞ	ﾄﾋﾞ	○												1	1	1
8	ﾀｶ	ﾂﾐ	VU													0	0
9	ﾀｶ	ﾊｲﾀｶ	VU													0	0
10	ﾀｶ	オオタカ	VU													0	0
11	ﾀｶ	ノスリ	VU													0	0
12	ｷﾂﾂｷ	ｺｹﾞﾗ		2		2		2	2	4	2	2	2		1	9	19
13	ｷﾂﾂｷ	ｱｶｹﾞﾗ	○													0	0
14	ｷﾂﾂｷ	ｱｵｹﾞﾗ	○	1	1					1		1				4	4
15	ﾊﾔﾌﾞｻ	ﾁｮｳｹﾞﾝﾎﾞｳ	VU											1		1	1
16	ﾊﾔﾌﾞｻ	ﾊﾔﾌﾞｻ	VU													0	0
17	ﾓｽﾞ	ﾓｽﾞ	VU								1					1	1
18	ｶﾗｽ	ｶｹｽ														0	0
19	ｶﾗｽ	ｵﾅｶﾞ	NT			3	2	10	2	2		8				6	27
20	ｶﾗｽ	ﾊｼﾎﾞｿｶﾞﾗｽ		4	5	7	3	18	5	5	4	9	3	4	6	12	73
21	ｶﾗｽ	ﾊｼﾌﾞﾄｶﾞﾗｽ		4	10	4	5	8	9	19	2	6	3	7	11	12	88
22	ｼｼﾞｭｳｶﾗ	ﾔﾏｶﾞﾗ	○			1				5		3	1	1	2	6	13
23	ｼｼﾞｭｳｶﾗ	ｼｼﾞｭｳｶﾗ		10	12	12	6	5	6	18	21	12	12	17	18	12	149
24	ﾂﾊﾞﾒ	ﾂﾊﾞﾒ				3										1	3
25	ﾂﾊﾞﾒ	ｲﾜﾂﾊﾞﾒ	NT													0	0
26	ﾋﾖﾄﾞﾘ	ﾋﾖﾄﾞﾘ		15	12	17	4	2		24	32	56	30	8	8	11	208
27	ｳｸﾞｲｽ	ｳｸﾞｲｽ	○	7	5	3	3				3	3	5	2	5	9	36
28	ｴﾅｶﾞ	ｴﾅｶﾞ			10	2		5	5			6		6	7	7	41
29	ﾒｼﾞﾛ	ﾒｼﾞﾛ		4		4	2	6	3	8	17	4	14	1	4	11	67
30	ﾑｸﾄﾞﾘ	ﾑｸﾄﾞﾘ		12	15										2	3	29
31	ﾋﾞﾀｷ	ｼﾛﾊﾗ										1		2	1	3	4
32	ﾋﾞﾀｷ	ﾂｸﾞﾐ										6	11	2		3	19
33	ﾋﾀｷ	ﾙﾘﾋﾞﾀｷ														0	0
34	ﾋﾀｷ	ｼﾞｮｳﾋﾞﾀｷ											1	1	1	3	3
35	ﾋﾀｷ	ｴｿﾞﾋﾞﾀｷ														0	0
36	ﾋﾀｷ	ｺｻﾒﾋﾞﾀｷ	VU													0	0
37	ﾋﾀｷ	キビタキ														0	0
38	ｽｽﾞﾒ	ｽｽﾞﾒ														0	0
39	ｾｷﾚｲ	ｷｾｷﾚｲ														0	0
40	ｾｷﾚｲ	ﾊｸｾｷﾚｲ											1			1	1
41	ｱﾄﾘ	ｱﾄﾘ														0	0
42	ｱﾄﾘ	ｶﾜﾗﾋﾜ										16				1	16
43	ｱﾄﾘ	ｼﾒ										6		1		2	7
44	ｱﾄﾘ	ｲｶﾙ	NT													0	0
45	ﾎｵｼﾞﾛ	ﾎｵｼﾞﾛ	NT													0	0
46	ﾎｵｼﾞﾛ	ｱｵｼﾞ		1												1	1
																0	0
																0	0
																0	0
観察種数 月 / 年				10	9	12	8	9	8	10	9	15	12	14	14	24	

ヒヨドリ

ムクドリ

コゲラ

コゲラの巣

シジュウカラ

キジバト

ヤマガラ

ハシブトガラス

メジロ

ヒヨドリジョウゴの実を啄むメジロ

オナガ

シメ

ツグミ

ジョウビタキ

月	25年度コメント
4	木々は新緑の葉を繁らせ始め、鳥の観察がしにくい季節になってきた。サクラの花の蜜を吸うヒヨドリが見られた。ウグイスの囀りがあちこちで聞こえた。アオゲラのドラミング、鳴声が聞こえたが、姿を確認することはできなかった。コゲラの巣から、コゲラが出てきたのを観察した。来月には、ヒナに餌を運ぶ姿が見られないかなと思った。ハシボソガラスも巣材を運ぶ姿が見られた。子育ての季節のようです。
5	ガビチョウの声が響き渡り、占領されたかと心配したが少し離れるとウグイスが良くさえずり、谷渡りと呼ばれる鳴き方をすることも有った。ムクドリの中に薄茶色の幼鳥が混じっていた。エナガが10羽ほど若葉の中を連れ立って飛び回っていた。今年生まれた幼鳥が混じっていたようだ。コゲラは既に巣立ったのか姿は見当たらなかった。シジュウカラの雄が青虫を咥えてきたと思ったら、枝にたたきつけていた。弱らせ
6	梅雨の中休みで猛暑の中、樹々の葉も下草も青々と生い茂ってきた。ウグイスの囀りが涼し気に聞こえ、シジュウカラやメジロは高い梢を鳴きながら行き来していた。高い樹々の木陰となる低木ではコゲラなどが見られた。また、赤い口が特徴のハシボソガラスの幼鳥の他、飛び方が未だ幼いヒヨドリの親子連れと思われる一団も見られ、巣立ちが着実に進んでいる様子が見られた。
7	今日は猛暑日が予想されており、暑さのためか鳥影は少なかった。いつもは煩いくらい聞こえるヒヨドリの鳴声も、殆ど聞こえなかった。涼しい山間部に移動したのかもしれない。飛んでいる鳥は少なく、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリが、まれに飛ぶ位だった。そんな中、ガビチョウの大きな声が数か所で聞こえ、それに対抗するようにウグイスも、数か所で囀っていた。
8	猛暑が一服、全国各地で数日間雨模様の日が続いたが、本日は曇って湿度が高い。全体的に鳥影は少ない中、ハシボソガラス、ハシブトガラスの集団が目立った。一方、エナガ･シジュウカラ･メジロ･コゲラの混群と思われる一群が一時、高い梢を鳴きながら行き来していた。また、ハシボソガラスの一群の中に、口の中が未だやや赤い、巣立って間もないと思われる一羽の姿が見られた。
9	厳しすぎる残暑に鳥も木陰で声を潜めているのか、カラス類の他の姿を確認するのが難しかった。隣接している建物の新しい白い囲みの中にヤマボウシの赤い実が見え、こちら側の高いサワラからそちら側へと移動するコゲラを先頭にした混群に出会いました。シジュウカラの幼鳥も混じって、懸命に追っていました。車や人が通るとこちら側に戻るを繰り返していました。
10	7月～9月の夏季は非常に少なかったヒヨドリが戻って来て、鳴声が煩いくらい聞こえた。武蔵台公園では観察数が非常に少ないヤマガラが4羽も見られた。コゲラ、シジュウカラ、メジロ、ヤマガラの混群が見られるようになった。ヤマザクラの幹に、アオゲラによって掘られた穴を、小鳥が再利用している形跡が見られた。今後、継続して観察したい。
11	一部で紅葉が進む秋晴れの中、シジュウカラ数羽とメジロ数羽が単体あるいは混群で梢から梢へ飛ぶ姿は春～夏よりも数多く見られた。枯れた木の高い梢ではコゲラが忙しく幹を突いて餌を探す様子が見られ、笹やぶではウグイスの地鳴きが聞こえた。また、秋を象徴するモズの高鳴きも確認できたが、府中市内で既に確認されて始めている冬鳥の姿は今回はなかった。なお、ヤマザクラの幹にアオゲラによって掘られた小穴は、今回は特段の変化等は無かった。
12	木々の葉が大分落ちて、小鳥が見やすい季節になってきた。ツグミ、シメ、シロハラなどの冬鳥も漸く観察できるようになったが、まだ、木の上の方に止まっている。ツグミ、シロハラが地上に降りて採餌するのはもう少し後になってからか。コゲラ、シジュウカラ、エナガの混群がみられた。メジロはヒヨドリジョウゴの赤い実を啄んでいた。ウグイスの地鳴きも目立ったが、ガビチョウも薮から藪へ飛び回っていた。
1	トウネズミモチが食べごろになったのか、ヒヨドリが多数出入りしていた。その上空の梢にツグミの姿があり、様子を伺うように止まって、待っているように見えた。ウグイスの地鳴きがあちらこちらで聞こえた。メジロ、シジュウカラがイヌシデの実にぶら下がったり、逆さまになって、啄んでいた。ヤマガラ、ジョウビタキの姿も確認されたが、少なかった。
2	一部の樹木には木の芽が膨らんできている様子が見られる中、木の実は枝にほぼ残っておらず、シジュウカラが落ちた実を探すように地面と低木の枝とを行き来していた。冬鳥ではシロハラやツグミが地上で採餌していたほか、シメ、ジョウビタキも観察できた。更には、チョウゲンボウが上空を飛行する姿が見られた。また、猛禽類のものと思われるペリット、並びに捕食されたと思われるシロハラの羽の残骸が確認された。
3	ヒサカキの花とヒヨドリ、ウグイスとユズリハの葉裏の虫の組み合わせが面白かった。まだｳｸﾞｲｽの本格的な囀りは聞こえてないが、ガビチョウが誰かの真似をしている声が聞こえて来た。小鳥たちはまだ混群のままのようだ。冬鳥のシロハラ、ジョウビタキの2種がカウントできたが、まもなく北へ帰るころなので、今期はこれが最後かも知れない。ハシブトガラスがコナラの枝を折り、巣材に良いか吟味していた。

注1：表の最下段は月ごとの観察種数と年間の観察種数。

注2：名称欄記号は、2023年度東京都レッドデータ、北多摩のカテゴリー表示。

外来種

観察月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
ｶﾜﾗﾊﾞﾄ		16			10		4		12		7	31	6
ｶﾞﾋﾞﾁｮｳ		3	4	3	3	2	2			3	1		2
ｿｳｼﾁｮｳ													
ﾎﾝｾｲｲﾝｺ												5	

レッドリスト表示について

名称欄に東京都レッドリストのカテゴリー表示を行った。カテゴリー表示の条件を以下に示す。

2023年版 東京都レッドリスト

対象地域 北多摩の評価による

カテゴリー名称	表示	基本概念
絶滅危惧ⅠA類	CR	ごく近い将来における野生で絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧ⅠB類	EN	ⅠA類ほどではないが、ごく近い将来における野生で絶滅の危険性の高いもの
絶滅危惧Ⅱ類	VU	現在の状況をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
準絶滅危惧	NT	現時点での絶滅危険度は小さいが、生育･生息条件の変化によっては「絶滅危惧」としての上位ランクに移行する要素を有するもの
ランク外	○	前回２０１０年版に掲載されていて今回の改定によりレッドリストから外れた種
非分布	・	主要な生息地でないという理由から対象外とされた種